

月刊しぼうら

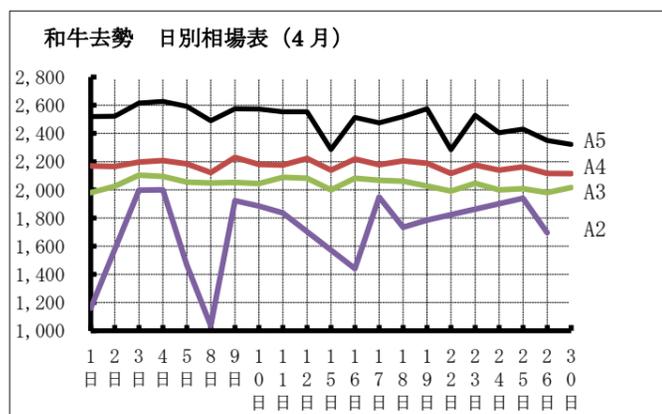
2024年5月号

牛肉営業部

<4月の相場動向>

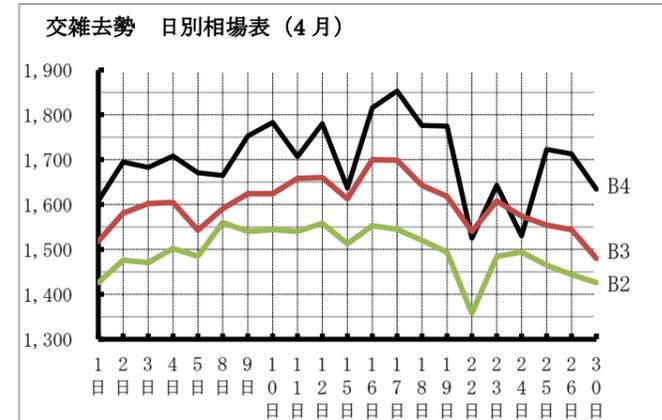
ゴールデンウィークを控えた4月は焼き材の需要期であり、例年相場が上昇する傾向があるが、昨年を引き続き生活関連コストの上昇による節約志向から、高価格帯の和牛は一部の飲食店向け銘柄牛以外、全ての等級で前年同月を下回る相場展開となった。

末端の需要が低価格商材中心のなか、アメリカ産牛肉の不安定な入荷状況と価格高騰から、代替品として交雑下位等級の引き合いが強まる結果となり、交雑牛の2、3等級は前年同月比及び前月比を上回る相場展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,523円	-119円 95.5%	-30円 98.8%
A4	2,185円	-153円 93.5%	-6円 99.7%
A3	2,048円	-76円 96.4%	+21円 101.0%
A2	1,665円	-257円 86.6%	+4円 100.2%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,708円	-29円 98.3%	+85円 105.2%
B3	1,607円	+96円 106.4%	+66円 104.3%
B2	1,500円	+147円 110.9%	+57円 104.0%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	-	-	-

<5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年同月比4.3%増の3万8,374tで、うちチルドは2.3%増の1万8,182t、フローゼンも6.2%増の2万192tとなり、ともに前年同月比及び前月実績を上回った。

農畜産業振興機構によると4月の牛肉輸入数量は、前年同月比26.7%減の4万9,800t(チルド17.9%減・冷凍30.5%減)、5月は8.7%減の4万2,400t(チルド0.6%減・冷凍12.8%減)と予測している。

また輸入牛肉については現地価格の高騰と国内需要の低迷により前年同期を大幅に下回る予測となっている。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,890	7,572	130.6%
	米国	6,936	8,784	78.9%
	その他	1,356	1,422	95.3%
	合計	18,182	17,778	102.2%
フローゼン	豪州	8,155	5,297	153.9%
	米国	6,572	8,390	78.3%
	その他	5,465	5,331	102.5%
	合計	20,192	19,018	106.1%

出典：食肉速報 単位：t

<5月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.4%の8万7,200頭で、品種別にみると和牛は5.5%増の4万400頭、交雑種は2.3%増の2万1,000頭、乳用種は1.7%減の2万4,700頭と予測している。

また、東京食肉市場の5月のと畜頭数は6,800頭を予定しています。

<5月の牛枝肉相場見通し>

5月は、ゴールデンウィーク中の出荷頭数の減少による在庫不足から、月初めに在庫補充の手当が見込まれるが、行楽需要の反動と、6月から予定される光熱費等の値上げに対する消費者の生活防衛意識の高まりから牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。

訪日外客数は3月に単月として初めて300万人を突破し、円安下での更なるインバウンド消費の拡大に期待したい。

5月の枝肉相場は和牛の5等級に関しては輸出用になるか否かで値幅のある展開、他等級は弱含み、交雑種に関しては、ゴールデンウィーク前よりは若干弱含むが、輸入品が不安定な入荷状況にあることから下位等級は堅調な相場が見込まれる。乳用種に関しては出荷頭数の微減が予測されることから、堅調な相場が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,300~2,600	B4	1,600~1,700
A4	2,100~2,300	B3	1,500~1,600
A3	1,900~2,100	B2	1,400~1,500
A2	1,700~1,900		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,150		
B2	900~1,000		

豚肉営業部

3月の全国と畜頭数は、137万665頭(前年同月比6.7%減)と前年を下回った。また、3月の豚肉通関数量は7万4,397t(前年同月比7.6%増)と前年を上回り、前月比では15.2%の増加となった。内訳はチルドが3万4,018t(前月比5.5%増)フローゼンは4万379t(同22%増)。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
比	95%	108%	114%	88%	93%	108%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

3月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	14,460	85.3%	デンマーク	5,009	139.5%
カナダ	15,116	92.7%	スペイン	11,273	106.8%
メキシコ	4,441	162.0%	メキシコ	6,149	111.3%
			アメリカ	5,156	247.8%
			カナダ	3,799	176.6%
合計	34,018	94.5%		40,379	122.0%

単位：t

<4月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	64,900	541	539	846
2日	66,600	548	540	914
3日	62,100	572	550	724
4日	65,600	579	572	509
5日	62,200	595	568	997
8日	66,400	578	560	864
9日	63,800	577	560	971
平均	64,514/日			832/日

4月に入り、イベントや花見など行楽による需要が増え始めたことで相場は徐々に上昇し、500円台後半の展開となった。入船の遅れや円安、現地相場高の影響により、輸入品の状況が厳しいため、国産品の引き合いは底堅く、特にスソ物を中心に安価な部位の引き合いが強まった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	64,500	580	560	679
11日	63,900	565	552	632
12日	62,900	568	550	975
15日	66,600	580	566	765
16日	67,200	590	579	1,080
17日	63,700	609	591	770
18日	65,300	634	620	659
平均	64,871/日			794/日

本格的に春の陽気になってきたことや、学校給食の手当てが入ったことから、相場は上中格差がほとんどない、上物600円絡みのこの時期としては高値での展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
19日	63,800	656	642	967
22日	66,400	661	648	793
23日	66,800	674	659	998
24日	65,800	691	671	826
25日	66,800	666	644	886
26日	66,400	667	655	1,058
30日	73,000	694	677	867
平均	67,000/日			914/日

ゴールデンウィークに向けて、徐々に手当てによる荷動きがみられたことで、相場は600円台後半の展開となり、30日には上物が700円に迫る展開となった。大型連休前にも関わらず、出荷頭数は落ち着いた状況で全国と畜頭数は6万頭台中心で推移した。

<5月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年5月の肉豚出荷予測では133万2,000頭(前年比97.5%)と予測している。

当市場の5月集荷予定せり頭数は1万6,000頭、1日あたりでは約762頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は総量で7万9,100t(同88.2%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,000t(同91.3%)、冷凍輸入量は4万7,100t(同86.2%)と予測。

冷蔵品輸入量は為替の影響に加え、北米産の現地相場高などから、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3ヵ月平均でも、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量も為替の影響に加え、米国産の相場高などから前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

5月は例年、大型連休明けは出費の反動により消費者の節約志向が強まり、全体的に末端需要は弱まる傾向となるが、今年は特に全国各地の観光地での外食需要が好調だったことから影響が大きくなりそうだ。

供給面では連休により出荷日が不安定だったことから、上旬は一時的に多い日もあるが、中旬から下旬にかけては昨年の猛暑の影響による受胎率の低下や、疾病の影響が大きく受け徐々に減少することが予想される。

輸入量は現地相場高や円安、入船遅延など不安定な状況が続いていることから、国産枝肉相場は底堅い展開が予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は650円前後、中物平均価格630円前後の展開と予測する。

